

(今の学校教育に欠けているものについての教育長の見解と道徳教育について)

道徳教育について伺います。

先ほど日本人の心がおかしくなっていると問題提起しましたが、それはなぜでしょう。大阪府では、心の教育というとすぐに人権教育になりますが、それだけに力を入れても若者は真っすぐ育たないことが現象としてわかってきました。

①ここは、教育長にお聞きします。今の学校教育に欠けているものを重要なものから三つ絞って認識をお聞かせください。我々新選会の見解では、その一つに道徳教育が挙げられると考えています。大阪府が好きな人権教育は、個人個人が自己を律するための人の守り従う道を学ぶ道徳教育ではなく、人とのかかわりの中で守り従う倫理を学ぶ教育であると私は考えます。そのようにして定義を分ければ、吹田市を含む大阪府は、倫理教育はしていても道徳教育はほとんどしていないというのが我々の認識です。

お隣の兵庫県でも、同じような認識を持たれてか、教材に兵庫ゆかりの人物を取り上げるなど地域の特性を生かす、子供たちに生き方について考えさせる、家に帰って家族と一緒に読めるといった三つのコンセプトを持って県の教育委員会が小・中学生を対象に4冊の道徳副読本をつくり、県内の児童、生徒に52万冊配布されました。大阪府ではこのような取り組みは進んでいるのか、お聞かせください。

②また、新選会としてかねてから福井県や山口県の取り組みを挙げ、偉人伝を取り上げた副読本の作成を依頼しておりましたが、吹田市での進捗はいかがでしょうか。

福岡の私立の博多高等学校では、民間の会社と連携して、日本人として生きるというタイトルの偉人伝を中心に取り上げた道徳の教科書を独自につくって教えています。やろうと思えば学校単独でもできるのですから、35万都市の吹田市でできないことはないはずです。

③このような人の生き方について考えさせる道徳教育の推進について、教育委員の任命権者である市長はいかがお考えでしょうか。推進すべきとお考えか、または価値観の押しつけであると否定的にとらえておられるのか、明確な見解をお示しください。

(田口省一教育長答弁)

①教育委員会にいただきました今の学校教育に関して欠けているものを重要なものから三つに絞って認識をとの御質問にお答えを申し上げます。

学校教育につきまして、本市は総合的人間力、すなわち基礎、基本の定着を初め、課題を発見し解決する確かな学力の育成、他者を思いやる心など豊かな感性、人間性の育成、そしてたくましく生きるための健やかな体づくりを掲げ取り組んでおりますが、そうした課題に立って少し時代を振り返り、お答えを申し上げたいと存じます。

私は山陰の小さなまちで生まれ育ちましたが、当時クラスに一人や二人ははだしで通学する子がいました。当時まだ給食がなく、弁当持参でございましたが、クラスに数人はコッペパン1個あるいはおにぎり1個のみの子、まれに何も持たない子もいました。教科書や服は、多くの子供が兄弟や親戚のお下がり大切に使用しておりました。そうした時代から現在を考えると、衣食住、子供たちを取り巻く環境は、全体として大変豊かな時代を迎えているものと存じます。

しかし、児童虐待など子供たちをめぐる痛ましい事件、いじめなどの問題行動は時代を追ってふえております。その背後に、家庭、家族の崩壊、子供に限らず大人もまた社会や集団から孤立、阻害されている状況、大きくは個人の尊厳がないがしろにされている状況があるのではないかと考えております。

そうした点から、教育委員会並びに学校におきましてはもちろん、個々の御家庭、地域、国、府、市町村に至るまで社会全体に、それぞれに大きな課題を背負っているものと考えております。

次に、時代を追っての認識として本市の学校教育に限って1点、施設面、学校規模面の大きな問題がございます。

かつて都市部では人口の過密化が進み、一方地方では過疎化が進みました。都市部では学校建設、新設校ラッシュとなり、地方では学校の統廃合が進んでおりました。本市にありましても、昭和の時代までは都市化、過密化への対応が中心でございましたが、とりわけここ十数年、全市36km<sup>2</sup>という狭い市域にもかかわらず、過密化と過疎化が同時進行する状況がございまして、1,000人を超える小学校がある一方、1学年30人に満たない学年がある小学校もございませぬ。学校施設は、教室はもちろん、運動場、校庭、敷地内の樹木等その環境が教育活動に密接にかかわってまいりますので、過密、過疎、いずれも大変大きな問題であると考えております。

また、地域に開かれた学校として、学校は地域と密接な関係にあり、学校も児童・生徒も地域によってはぐくまれるものであると考えております。過密化と過疎化の同時進行は、そうした学校文化、地域文化、人と人とのコミュニティという面からも解決すべき課題でございませぬが、同時に教育委員会だけでは解決が難しい大きな問題でございませぬ。今後、多くの小・中学校が老朽化に伴う大規模改修、建てかえを迫られていることもあわせまして、中・長期的な視

点から関係各方面と十分研究、検討、協議してまいらなければならないものと考えております。

最後に、学校教育にかかわる三つ目の課題認識でございますが、御指摘の道徳教育につきましては、新しい教育基本法に掲げる公共の精神の尊重、豊かな人間性と創造性、伝統、文化の継承などともかかわり、時代を超えて受け継ぎ、はぐくんでまいらなければならない精神性であると考えております。国際化、国際競争の時代、国際性のある人材育成が求められておりますが、その基本は日本人としてのアイデンティティーであり、日本の歴史、伝統、文化に裏づけられた国際性であり、日本語、国語力をはぐくんでこそその語学力であろうと存じます。

かつて、NHK交響楽団がヨーロッパに初めて演奏旅行した際、観客席のブラボーのあらしを呼んだのは、西洋音楽、ベートーヴェンやモーツァルトの交響曲ではなく、オーケストラの中に笛やかね、太鼓を用いて演奏した八木節であったと言われております。真なる民族性は真なる国際性を持つという言葉のゆえんかと存じます。

学力というものが、ややもすれば算数、国語、理科、社会等に偏りがちにとらえられる中にありまして、知、徳、体の徳、広く道徳の教育を進めるに当たりましては、そうした国際性豊かな人間性の育成など幅広い視点からこれをとらえることの重要性を痛感しているところでございます。

以上、よろしく御理解賜りますようお願い申し上げます。

#### (松井静子教育監答弁)

②学校教育部にいただきました数点の御質問について、市長への御質問も含めまして、まず私からお答えいたします。

初めに、道徳教育についてでございますが、大阪府では、将来への理想や目標を持ち、よりよい社会をつくろうとする意欲や態度をはぐくむことを目的とした冊子、夢と志をはぐくむ教育を編集し、各小・中学校に配布しております。構成は、読み物資料を中心として、小学校低学年で基本的な生活習慣、中学年で役割、協力、高学年で自己有用感、責任、中学校では自己理解、将来の目標、社会の一員としての自覚、自他の尊重、志を立てることに重点を置き、自己を見つめ向上を図る内容となっており、各校におきましては吹田市の道徳副読本とあわせて道徳の時間等で活用しております。

偉人伝を取り上げた副読本の作成につきましては、昨年度、編集委員会を組織し検討を重ねてまいりましたが、完成に至っていないのが現状でございます。道徳教育推進教師が定期的に研修会を持ち、教材の研究に努めており、歴史上

の人物やさまざまな分野で偉業をなし遂げた人から学び、自己の生き方について考える授業を行っております。

次に、人の生き方について考えさせる道徳教育につきましては、子供たちが自己に向き合い、先人の生き方から学ぶなど充実した生き方についての自覚を深め、自分自身のよさや個性を見出していくことは豊かな人間性を形成する上でも大切なことから、今後も推進してまいりたいと考えております。

#### (井上市長答弁)

③道徳教育につきましては、今後とも力を入れて推進していくべきであると考えております。

#### (足立将一再質問)

①教育長、まず、丁寧な御答弁ありがとうございました。二つ目、三つ目の課題につきましては我々新選会も同じような課題を認識しておりますので、非常に喜ばしく思います。二つ目の施設につきましては、やはり政治の力が必要だと思いますので、ファシリティー・マネジメント等を活用し、何とか最優先で学校教育の施設整備を進めていただきたいと、そういう提案をしてまいりたいと私は考えております。

また、三つ目の課題、これは私も非常に感じております。伝統、文化、そして歴史、これを学ぶことによって国際社会において日本人がアイデンティティーを持って他国の人々と競い合える、とにかく国に対する国民としてのアイデンティティーが必要だと私は考えております。そういった課題を解決するために、教育長はどのような対応、どのような行動、どのような働きかけを教育長としてなされるおつもりでしょうか、具体的にお聞かせください。

②次に、道徳教育について伺いますが、偉人伝を取り上げた副読本については、編集委員会を組織し検討を重ねたということですが、現在の進捗状況をお聞かせください。

③道徳教育の推進について市長も推進すべきという立場をとられるというので、非常に喜ばしく思います。ぜひ教育長、教育委員会と御協力の上、吹田市における道徳教育、正しい方向に導いていただきたく、これは要望にしておきます。

#### (田口省一教育長再答弁)

足立議員からいただきました2回目の御質問にお答えを申し上げます。

三つお答えを申し上げたうちの2点目、3点目を中心に再度のお尋ねでございますが、2点目の施設整備に関しまして一定の政治力が必要だということでございますが、政治力並びに財政力も必要でございますし、さまざまな事業をするに当たって財源の確保ということが常に教育においては大きな課題になってまいります。

同時に、財政を伴わない、規模の適正化を含めてさまざまな方法論、お金がかからない方法も含めてございますので、それぞれの過疎が進んでいる地域、過密が進んでいる地域、市全体、小学校区では35小学校区でございますけれども、それぞれの地域に応じたさまざまな方策はどのようなことが考えられるのか、それぞれの地域特性は何か、そうしたことを既にもう2年ほど前から教育委員会の教育政策室におきまして検討中でございます。そうしたものを今後、5年、10年後に向けてさらに具体的に一つずつ進められるように検討をしてみたいというふうに思っております。

それから、3番目の伝統、文化を含めた新教育基本法に基づくさまざまな教育課題でございますけれども、最近テレビ等でサッカーの中田選手が引退をされてからさまざまな外国へ行った教訓として、さまざまな外国で各界のトップと渡り合う中で、日本のことを余りにも知らなかったと、伝統文化についても余りにも自分は知識がなかったことを大変恥ずかしく思ったということを書いて、現在、伝統文化、伝統工芸をどう学び、どう育てるかということの活動もしておられるということを知った次第でございますけれども、今後国際社会で活躍していく上では、確かに語学力、さまざまな知力は必要でございますけれども、そうした伝統文化、日本の文化に対する理解を深めて、誇りを持って世界で活躍できる、そういう子供たち、青年を育てていくことが重要かと思っております。

その具体化の問題でございますけれども、これはさまざまな方策はあるかと思っておりますけれども、現在副読本の準備も進めているところでございますし、また小学校の中には理科、体育その他と並んで学研の道德部というのもございます。そうしたところで、教育研究大会等でも各学校から学研各部の教職員が非常にすばらしい発表もしておりますので、そうしたものも生かしながら今後の教育に生かしてまいりたいと思っておりますので、以上、よろしく御理解賜りますようお願い申し上げます。

(松井静子教育監再答弁)

② 2回目の質問にございました偉人伝を取り上げた副読本の進捗状況につきまして学校教育部よりお答え申し上げます。

昨年度、編集委員会を組織し資料を集めている状況でございますが、例えば吹田に基盤を置いて、泉殿宮の大塩平八郎、また浜屋敷や権六おどりなど、また吹田の自然にかかわって紫金山の里山的風景やヒメポタルとそれを守る人たちというような形で吹田に軸を置きながらの資料収集をしており、その集めた教材を使いながら道徳の研究授業を実施し、道徳教育の推進に向けて、また道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深められるよう取り組みを進めているところでございますので、よろしく願いいたします。

**(足立将一要望)**

道徳副読本につきまして、教育長、市長ともに道徳教育の推進を図りたいというお気持ちを持たれているようなので、このような財政状況ではありますが、やはり子供の教育にはお金はしっかりとかけるべきだと思いますので、ぜひ進めていただければと思います。